



「新会長に選出されて」

岡太彬訓

この度、矢島敬二前会長の後を受けて、昨春日本分類学会の会長に選出されました。浅学非才の身を顧みず、会長の重職をお引き受けした次第ですが、会員の皆様のさまざまな面でのご協力を得て、学会のために全力を尽くしたいと考えております。ここでは新会長としての抱負を述べることで、巻頭言といたしたいと思います。

学会の使命は、学会員の支払う学会費を可能な限り有効に使うことで、研究上の成果を学会員に還元する、あるいは、さらに広く考えれば、このような成果を社会に還元することではないかと思います。日本分類学会の学会としての活動についても、このような観点からどのようにしたらよいのかという立場から運営していきたいと考えています。本学会は、学会としては会員数が少ないという意味で、小さい学会であるということができると思います。一方、本学会には、他の学会には見られないさまざまな特徴をもっています。その一つが、国際分類学会連合（International Federation of Classification Societies: IFCS）の構成メンバーであるということで、国際的な研究活動の展開をしているということは、本学会の今後を考えるときに大きな意味をもつと思います。IFCSの構成メンバーの中で、本学会は北米分類学会（Classification Society North America: CSNA）およびドイツ分類学会（Gesellschaft für Klassifikation: GfKl）と並んで、会員数の多い学会になりますが、始めに述べたように、決して会員数が多い訳ではありません。学会として学会独自の価値観や立場にもとずくさまざまな活動を行い、その成果を会員や社会に還元するためには、ある程度の会員数の多さというものも重要であろうかと思えます。会員数の増加ということを重要な目標と考えている次第です。会員数の増加を図るための一助として、今年3月に京都で行われる日本行動計量学会の「合宿セミナー」に共催として参加し、本学会のセッションを設けることにしました。このセミナーは例年150名から250名程度の参加者があり、大学院生や若手研究者が多いため、これらの若い研究者を中心とする参加者に本学会の存在を知って貰い、将来の学会員増加や学会の研究活動の活性化につなげた

<目次>

・巻頭言「新会長に選出されて」	岡太彬訓	1
・日本行動計量学会第9回春の合宿セミナーのご案内		2
・学術雑誌の創刊について		2
・役員改選結果報告		3
・総会記録		3
・運営委員会記録		7
・幹事会記録		7
・研究報告会記録		7
・IFCS（国際分類学会連合）関連		9
・関連学会活動		9
・国際会議開催情報		10
・事務局から		10

いと考えています。

海外の分類学会との連携や共同事業ということでは、現在2つが進行中です。第1は、ドイツ分類学会およびイタリア分類学会（Classification and Data Analysis Group: CLADAG）と3学会共同で進めている新たな学術雑誌の創刊です。北米分類学会が発行しているJournal of Classificationとはやや性格の異なる学術雑誌を目指しています。詳しくは本会報に掲載されている記事をご覧くださいと思いますが、Springer社より刊行の予定で、現在日本分類学会として鋭意準備を進めています。第2は、日独分類会議です。前会長の矢島先生を議長として、第1回日独分類会議が、昨年9月に東京の品川で行われました。詳しいことは本会報に記事がありますので、是非目を通して頂きたいと思えます。これは、昨年4月から1年間が「日本におけるドイツ年」であるということから、開催したものです。続いて第2回日独分類会議が、本年3月にドイツのベルリンで開催されます。これは、ドイツ分類学会第30回大会の前日に開催されるものです。また、今年7月に国際分類学会連合の2年に1回の大会がスロベニア（Slovenia）のリュブリアナ（Ljubljana）で開催されます。これについても多くの会員諸氏にご参加頂き、国際的な研究活動の範囲を拡げていただきたいと思います。

今年度の学会研究報告会（第22回研究報告会）は、昨年12月6日に開催され、16件の報告と50名弱の参加者がありました。報告数も参加者も決して多いとはいえない状況です。今年で30回を迎えるGfKlの大会が当初は10数名の参加者で開催されながら、現在ではヨーロッパ各国の分類学会と共催したり、

周辺各国からも多くの参加者を集めて、300人規模の参加者になっていることと比較すると、本学会の研究報告会は、はなはだ小規模だといわざるを得ません。例年12月は、他の統計関係の学会の大会がなく、発表の機会という意味では時期もよく、関連諸学会や海外の分類学会との共催などさまざまな工夫をこらすことで、大会の参加者の増加を図ることはできないかということを考えています。今後とも会員の皆様のご協力をお願いいたします。

(立教大学社会学部)

「日本行動計量学会第9回春の合宿セミナー」のご案内

宿久 洋

日本分類学会に共催していただき、日本行動計量学会第9回春の合宿セミナーを、以下の要領で開催させていただくことになりました。プログラムには日本分類学会の企画「クラスタリング手法の理論と応用」も含まれ、その他、会員のみなさまにも興味深い内容となるよう企画しております。

日本分類学会の会員も共催学会会員として会員価格でご参加いただけます。多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

記

日 程：2006年3月16日（木）～3月18日（土）

場 所：同志社大学京田辺キャンパス

セミナーHP：

<http://www.cis.doshisha.ac.jp/stat/bsj06/>

セミナーの内容：

S-Plusコース（先着80名）

- 1) S-plus入門
- 2) Visual Mining Studioによるデータマイニング入門
- 3) Text Mining Studioによるテキストマイニング入門

SPSSコース

- 1) SPSS入門（先着80名）
- 2) SPSSによる多変量解析Ⅰ－回帰分析－
- 3) SPSSによる多変量解析Ⅱ－クラスター分析－
- 4) SPSSによる多変量解析Ⅲ－因子分析－

社会調査コース（人数制限なし）

- 1) 社会調査の最前線－世論調査－
- 2) 社会調査の最前線－選挙予測調査－
- 3) 社会調査の最前線－国際比較調査－

クラスタリングコース（人数制限なし）

- 1) クラスタリング手法の理論と応用Ⅰ
- 2) クラスタリング手法の理論と応用Ⅱ
- 3) クラスタリング手法の理論と応用Ⅲ
- 4) クラスタリング手法の理論と応用Ⅳ

(同志社大学文化情報学部)

ドイツ分類学会（GfKI）およびイタリア分類学会（CLADAG）の3学会による学術雑誌の創刊について

岡太彬訓、今泉 忠

日本分類学会では、従来より学会誌の発行を計画しておりましたが、電子化の流れや学会誌の価値などを考慮して慎重に検討を重ねてきました。この度、ドイツ分類学会およびイタリア分類学会より分類に関する雑誌を共同で刊行したいとの申し入れがドイツ分類学会よりありました。現在北米分類学会（Classification Society North America: CSNA）の発行しているJournal of Classificationとは別の雑誌になります。この新たな学術雑誌の創刊について、昨秋の幹事会で検討し、これに参加することを是とする結論を得、2005年8月31日の総会において新たな学術雑誌の創刊への参加と費用の分担についてご承認を頂きました。

この学術雑誌は広い意味でのclassificationとdata analysisの領域を扱うもので、Springer社より発行される予定です。創刊にあたっては、初期費用（約5,000/年間、3年間）をまかなうために、ドイツ分類学会は最大1,500ユーロを最長3年間支出することを決めております。イタリア分類学会は1,500ユーロを2年か3年支出することを決めております。日本分類学会としては3学会共同での学術誌の創刊に踏み出すことを新たな発展の好機と考え、幹事会ではこれに対して最大1,500ユーロを最長3年間支出することを決定し、総会でご承認を頂きました。学会の予算規模に対して、少なからぬ金額ではありますが、賛助会員を含む会員数の増加を図るなどの方策により、財政的な影響を軽減する努力をする所存です。会則第2条には「国際研究交流を通じてわが国における分類研究の進歩発展を図ることを目的とする」とあり、第3条には、その目的を達成するための事業として「機関誌等の発行」が挙げられております。日本分類学会の学会誌という形ではありませんが、この学術雑誌の創刊に参加することは、本学会の趣旨に適うものと考えております。

本学術雑誌の創刊に関しては、一昨年夏に非公式な連絡が、岡太宛にあり、当時の日本分類学会会長であった矢島先生と連絡をとりながら進めて参りました。昨年3月のドイツ分類学会の第29回大会（於Magdeburg）において、ドイツ分類学会、イタリア分類学会からの代表、また、Springer社の担当者を

含めた会合があり、同大会に参加していた岡太と今泉もこの会合に参加しました。

新学術雑誌と国際分類学会連合（International Federation of Classification Societies：IFCS）と関連については、現在密接に連絡をとりながらつめておりますが、具体的な新学術雑誌と国際分類学会連合の関連については、発行後にきちんと考えなければならぬものと認識しております。これは、新学術雑誌の創刊をできれば今年末にしたいと考えていることから、創刊までの時間的余裕があまりなく、国際分類学会連合との具体的な関連を創刊後に考えようということです。

既に刊行されているJournal of Classificationとの関係については、今後さらに詰めなければなりません。現在のところJournal of Classificationに比較して、より広い意味でのclassificationとdata analysisを扱い、theoreticalにもpracticalにも偏らないという位置付けが考えられています。具体的な雑誌名は、未だ決まっておりますが、このような位置付けを反映した名称が幾つか候補に上っております。

日本分類学会にとっては、大きな経済的負担を伴う事業ではありますが、あらたな発展の機会であるということができます。日本分類学会の会員各位の多大なるご支援を是非ともお願いいたします。新学術雑誌の論文の投稿の受付も始まることと思います。会員各位より新学術雑誌への活発なご投稿をぜひともお願いする次第です。

（岡太彬訓，立教大学社会学部；
今泉 忠，多摩大学経営情報学部）

役員改選結果報告

会則に従い、平成17・18年度の役員改選を行った。2名の選挙管理委員（石塚隆男 亜細亜大学、片山清志 日本科学技術研修所）により開票を行った。結果は以下の通りである。

なお、任期は、平成17年4月1日から平成19年3月31日である。

会長

岡太彬訓（立教大学）

会計監事

宮原英夫（茅ヶ崎リハビリテーション専門学校）
田村 仁（日本工業大学）

運営委員（五十音順）

岩坪秀一（早稲田大学）、大隅 昇（統計数理研究所名誉教授）、大津起夫（大学入試センター）、大橋靖雄（東京大学）、岡太彬訓（立教大学）、片山清志（日本科学技術研修所）、栗原考次（岡山

大学）、佐藤美佳（筑波大学）、佐藤義治（北海道大学）、柴田義貞（長崎大学）、鈴木督久（日経リサーチ）、丹後俊郎（国立保健医療科学院）、土屋隆裕（統計数理研究所）、馬場康維（統計数理研究所）、宮原英夫（茅ヶ崎リハビリテーション専門学校）、宿久 洋（同志社大学）、柳井晴夫（大学入試センター）、山岡和枝（国立保健医療科学院）、山口和範（立教大学）、山本義郎（東海大学）、吉村 宰（長崎大学）

また、運営委員会によって、以下の幹事会メンバーが承認された。

幹事長

山口和範（立教大学）

幹 事

豊田裕貴（庶務担当，多摩大学）
山本義郎（広報担当，東海大学）
土屋隆裕（統計数理研究所）
吉村 宰（長崎大学）

総会記録

●平成17年度総会議事録

日時：平成17年8月31日（金）

場所：多摩大学品川ルネッサンスセンター

出席者11名，委任状27名

1. 議長選出

矢島敬二氏（東京理科大学）を議長に選出した。

2. 役員承認

平成17年度，18年度の会長・監事・運営委員について承認された。

3. 平成16年度事業報告ならびに決算報告

下記3.1. および3.2. について山口幹事長より説明があった。いずれの事項も承認された。

3.1. 平成16年度事業報告

1) 第20回通常総会の開催

平成16年12月17日（金）

東洋英和大学大学院にて

2) 第21回研究報告会の開催

平成16年12月17日（金）

東洋英和大学大学院にて

一般発表10件

3) 会報の発行

JCS会報第28号（平成17年1月）の発行

4) 運営委員会の開催

以下の点について、電子メールを活用した打ち合わせを行った。

- ・総会、研究報告会、シンポジウムの開催
- ・統計関連学会大会連絡委員会への参加
- ・総会の議題

5) 幹事会の開催

以下の点について、電子メール等を活用した打ち合わせを行った。

- ・平成17年度年次計画
 - (1) 総会の開催
 - (2) 研究報告会の開催
 - ・平成16年度会計監査
 - ・会報の発行
- #### 6) 統計関連学会連合大会連絡委員会への参加
- 連合大会実行委員会会議に、会長または幹事長が出席し議論に参加した。
- #### 7) Webサーバーの運営
- 広報担当幹事が担当し、学会活動報告、計画を掲載した。
- #### 8) 国際分類学会 (IFCS) への協力

3.2. 平成16年度決算報告

会計幹事2名の監査結果を頂いた旨を事務局より説明した(5ページの決算書を参照)。

4. 平成17年度事業計画ならびに予算

下記4.1. および4.2. について山口幹事長より説明があった。いずれの事項も承認された。

4.1. 平成17年度事業計画

- 1) 第21回通常総会の開催
平成17年8月31日(水)
多摩大学ルネッサンスセンター(品川)にて
- 2) 第22回研究報告会の開催
平成17年12月6日(火)
立教大学(池袋)にて
- 3) 会報の発行
JCS会報No.29の発行(平成18年1月を予定)
- 4) 運営委員会の開催
電子メールを主にして開催する。
以下の点を検討課題とする。
 - ・シンポジウム・学会への協賛
 - ・IFCS-2005におけるTravel Award Program

(TAP) への推薦者の決定

- ・旅費等の支給
- ・統計関連学会連絡委員会への対応
- ・統計関連の学会間の行事の調整や相互の情報提供を行う。
- ・国内外の連絡調整窓口として機能する。
- ・連絡委員会のWebを立ち上げ、連絡事項の提示を行う。
- ・2006年の連合大会への協賛
- ・総会の議題

5) 幹事会の開催

電子メールにより、必要に応じて連絡をとり、審議する。

6) Webサーバー関係

広報担当幹事が担当して、学会活動の報告、計画を掲載する。

7) 国際分類学会 (IFCS) への協力

分担金を負担する。

8) 他学会との交流

統計関連学会連絡委員会への参加

- ・連絡委員会、大会実行委員会への参加や連合大会への協賛
- ・要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛

4.2. 平成17年度予算案

6ページの予算書を提示し、了承を得た。

5. 新入会員、退会者報告

新入会員、退会者報告(05.8.1現在)

平成17年度 正会員入会者6名

[参考:現在の会員数] 正会員167名、賛助会員6社(平成17年8月現在)

6. 今後の学会運営について

- 1) 会則の変更について
- 2) ジャーナルの発行について
- 3) 統計関連学会連合など、他学会との協力の推進理事会、各種委員会に出席し協調について検討する。
- 4) 他の学会等が開催するシンポジウムなどの共催
- 5) その他

平成16年度決算書

平成17年 3月31日現在

収入の部

科 目	細 目	予算額 (単位円)	決算額 (単位円)
前年度繰入金		168,774	168,774
会費収入	会費小計	700,000	549,000
	平成16年度分正会員	346,500	264,000
	平成16年度分賛助会員	180,000	150,000
	平成15年度分までの未納分	148,500	120,000
	新入会員	15,000	9,000
	入会金	10,000	6,000
雑収入	小計	115,000	38,971
	予稿集売り上げ	30,000	0
	研究報告会参加費 (含報告書代金)	60,000	31,500
	シンポジウム参加費 (資料代金を含む)	0	0
	広告掲載料	25,000	0
	利息・その他		7,471
計		983,774	756,745

支出の部

平成17年 3月31日現在

科 目	細 目	予算額 (単位円)	決算額 (単位円)
経常運営関係費	小計	360,000	27,000
	会報印刷代 (JCS会報)	200,000	0
	会報印刷代 (IFCS会報)	100,000	0
	連絡用印刷代 (葉書等)	60,000	27,000
大会開催費 (シンポジウム含)	小計	170,000	121,350
	シンポジウム予稿集印刷	0	0
	研究報告会予稿集印刷	150,000	114,000
	会場費	0	0
	シンポジウム発表者謝金	0	0
	開催費 (茶菓子等)	20,000	7350
事務費	小計	155,000	14,833
	人件費	140,000	7,000
	事務用品/振込手数料	15,000	7,833
通信郵送費	小計	170,000	53,060
	会報送料	60,000	19,720
	会費請求等郵送料	50,000	33,220
	切手、その他	60,000	120
運営分担金	小計	30,000	10105
	IFCS	30,000	0
	日本統計学会連合	0	10105
役員改選	印刷・葉書・送料等		23,620
予備費		98,774	
計		983,774	249,968

収支差額

収入 (756,745) - 支出 (249,968) = (506,777)

差額内訳

168,774円
 (銀行口座 342,658円)
 (郵便振替口座 84,000円)
 (現金 80,119円)

この差額を次年度繰越金とする。

監査の結果、上記の通り相違ないことを証します。

高倉 節子 (印)
 村田 磨理子 (印)

(正式な監査報告書には両委員の押印あり)

平成17年度予算書

収入の部

科 目	細 目	予算額 (単位円)
前年度繰越金		506,777
会費収入	平成17年度分正会員 平成17年度分賛助会員 平成16年度までの未納金 新入会員 新入会員 入会金	774,300 350,700 180,000 268,600 (15,000) (10,000)
雑収入	予稿集売り上げ 研究報告会参加費 (報告集代金を含む) シンポジウム参加費 (資料代金を含む) その他 広告掲載料	115,000 (30,000) (60,000) (25,000)
計		1,396,077

(注) 会費収入は次のようにして算出した (平成17年 8 月 1 日現在)。

平成17年度分会費

正会員	$167人 \times 3,000円 \times 0.7 =$	350,700円
賛助会員	$6口 \times 30,000円 =$	180,000円

未納会費

平成16年度までの未納分 (延べ) ※ 2 割を回収と見込み

正会員	$1343,000円 \times 0.2 =$	268,600円
-----	--------------------------	----------

新入会員

入会費	$5人 \times 2,000円 =$	10,000円
-----	----------------------	---------

年会費	$5人 \times 3,000円 =$	15,000円
-----	----------------------	---------

支出の部

科 目	細 目	予算額 (単位円)
経常運営関係費	会報印刷代 (JCS会報) 会報印刷代 (IFCS会報) 連絡用印刷費 (葉書等)	360,000 (200,000) (100,000) (60,000)
大会開催費 (研究報告会、共催 シンポジウムを含む)	研究報告会予稿集印刷代等 開催費 (茶菓子等)	170,000 (150,000) (20,000)
事務費	人件費 (交通費含) 事務用品費	155,000 (140,000) (15,000)
通信郵送費	会報送料 会費請求等連絡通信費 切手、その他	170,000 (60,000) (50,000) (60,000)
IFCS運営分担金		30,000
ジャーナル発行費		150,000
予備費		361,077
計		1,396,077

運営委員会記録

●平成17・18年度第1回運営委員会

日時：平成17年5月31日
場所：電子メールによる
出席者（回答者）：16名

下記の議題について審議し過半数の了承が得られた。

議題

平成17・18年度の幹事長として山口和範氏（立教大学）の就任について

●平成17・18年第2回運営委員会

日時：平成17年6月16日
場所：電子メールによる
出席者（回答者）：17名

下記の議題について審議し過半数の承認が得られた。

議題

豊田裕貴氏（庶務）、山本義郎氏（広報）、土屋隆裕氏、吉村宰氏の平成17・18年度幹事としての就任について

●平成17・18年第3回運営委員会

日時：平成17年8月31日
場所：電子メールによる
出席者（回答者）：17名

下記の議題について審議し過半数の承認が得られた。

議題

平成17年度事業計画および予算について
会則の変更について
新入会員、退会者の扱いについて
ジャーナルの発行について
統計関連学会連合への参加について

幹事会記録

●平成17・18年度幹事会報告

各運営委員会、総会前の会議および随時電子メール、電話等により打ち合わせを行った。

1. 平成17・18年度運営委員会開催

2. 平成17年度年次計画
（a）総会開催
（b）研究報告会開催
3. 平成16年度会計監査
4. 会則の変更について
5. 統計関連学会連合の参加について
6. 会報の発行について

研究報告会記録

第22回研究報告会

日時：2005年12月6日（火）9：45～17：40
会場：立教大学 セントポールズ会館2F

2005年12月6日（火）に立教大学で開催いたしました第22回研究報告会におきましては、49名のご参加をいただきました。

また、海外からの特別公演としてJay Magidson氏を招き、発表者数も16件と活発な議論が交され、盛大に報告会が行われました。

大会プログラム

開会挨拶

岡太彬訓（立教大学）



セッション1

座長：矢島敬二（東京理科大学）

- 1-1. ○山本義郎（東海大学）・宿久洋（同志社大学）
「クラスタリング結果の探索的視覚化」
- 1-2. ○桑田智幸・四條俊也・佐藤美佳（筑波大学）
「ファジィ分類構造の関連性を考慮したクラスタリング」
- 1-3. 河野康成（立教大学）
「属性変数を用いた文化パターンの分類」
- 1-4. 近藤明良（システム・コントロール（株））
「株の変動値の分析と地震の予兆」

セッション 2

座長：土屋隆裕（統計数理研究所）

- 2-1. ○黄智潔・石塚隆男（亜細亜大学経営学部）
「製品評価クチコミデータのマイニングによる知識抽出」
- 2-2. 瀧谷浩太郎（（株）セゾン情報システムズ）
「商品間の値引き反応について消費者個別に捕捉する確率モデル」
- 2-3. 大竹延幸（（株）マーケティング・サービス）
「時系列データからみた男女による支出意識に及ぼす消費意識の影響差」
- 2-4. 松井清（（株）東京CRO）
「2次分析とセキュリティ」



セッション 3

座長：井上寛（九州工業大学）

- 3-1. ○横山暁（慶應義塾大学）・岡太彬訓（立教大学）
「あいまいさを表す親近度行列の多次元尺度構成法への適用」
- 3-2. ○江藤麻由子・岡太彬訓（立教大学）
「子供の名前に用いる漢字の移り変わり－MDPREFを用いた分析－」
- 3-3. ○坂井倫子・岡太彬訓（立教大学）
「スポーツ選好の非対称関係の分析」
- 3-4. 中山厚穂（立教大学）
「可変的な重みつきモデルによる単相3元データの分析」

特別講演

座長：山口和範（立教大学）

- S-1. Jay Magidson（Statistical Innovations Inc.）
“An Extension of the CHAID Tree-based Segmentation Algorithm to Multiple Dependent Variables”



セッション 4

座長：鈴木督久（㈱日経リサーチ）

- 4-1. 小島早都子（東京大学）
「マッピングのための潜在構造モデル－実データへの適用－」
- 4-2. ○櫻井尚子（東京情報大学）・山口和範（立教大学）
「二元同時解析のための潜在クラスモデルの提案」
- 4-3. 岡田謙介（東京大学）
「確認的因子分析モデルにおけるItem Parcelingとモデル適合」

閉会挨拶

岡太彬訓（立教大学）

懇親会

日時：2005年12月6日（火）18：00～20：00

会場：立教大学 セントポールズ会館2F

参加者数：19名



IFCS（国際分類学会連合）関連

●IFCS-2006について

矢島敬二

IFCS-2004はアメリカのシカゴで開かれたがこの会議で次のIFCS-2006はスロベニアの首都リュブリャナで2006年7月25-29日に開かれることが決まった。シカゴでの会議についてはすでに分類学会の会報28号（2005年1月）で報告されているのでここでは2004年7月16日の理事会関連事項について少しだけ述べておきたい。

当時のIFCS会長Henk Kiersがifcs Newsletter No.28で強調しているように会の最近の特徴として会員への情報の直接伝達の推進がある。これはIFCSホームページの機能強化に他ならず、会場となったイリノイ工科大学の多くの人たちの協力で規約、内規、選挙規定をはじめ重要な情報がウェブサイトから見られるようになったのである。

IFCSの発足当初からNewsletterは本部からの配布を考えず、各学会からの印刷配布となっていたがさらには添付資料として直接的にメールで会員への配布ができないかという議論も理事会では審議された。こういう動きに対応して日本分類学会でも印刷配布は省略することとしているが各会員の希望に基づくメールでの添付資料の配布は可能であるし効率的であろう。シカゴに着いてからIFCS-2004会場への行き方などもすべてウェブサイト利用が基本で、たとえば現地のホテルに到着する前に調べておこうとして理解に手間がかかったが、アメリカ国内からの訪問者も同じような努力をしたのであろうからこれは納得しなければならないものようである。

シカゴでの会議からそれまでTAP（Travel Award Program）といわれてきた「若手研究者への旅費援助プログラム」はChikio Hayashi Travel Awardと改称されたが旅費の拠金基盤は強力ではなく、2005年9月に理事の投票により会議への参加者にアメリカドルで20ドルの負担をお願いすることとなっている。これはリュブリャナでのIFCS-2006から実施されるのでご了承いただきたい。なお、IFCS-2006の論文抄録投稿期限は2006年2月15日で多数の投稿を期待します。（東京理科大学経営学部）

関連学会活動

●統計関連学会連絡委員会について

矢島敬二

統計関連学会連合（Japanese Federation of Statistical Science Associations）は統計学の発展普及を目指して応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の6学会を母体として2005年2月4日に設立された。（<http://www.jfssa.jp>参照）理事は各学会2名でその任期は2007年3月までで任期途中で理事は交代可能であるが分類学会では諸般の事情から矢島が理事を継続している。

やがて設立1周年を迎えることになる連合の大きな行事として広島での2005年度統計関連学会連合大会を終えたのであるが、連合から分類学会への問い合わせ事項にはいろいろある。2006年度の関連学会連合大会は仙台で9月5-8日に開かれ分類学会は広島での場合と同じく協賛であるが、現在2007年度の大会への参加形態をどうするかが問いかけられている。学会誌を統一しようという議論にも適切に対応すべきところであり、新しい年の課題はいろいろある。会員皆様の議論への参画を願うものである。（東京理科大学経営学部）

●その他

各学会の活動状況は、ホームページをご覧ください。

統計関連学会連合

<http://www.jfssa.jp/>

日本統計学会

<http://www.jss.gr.jp/>

応用統計学会

<http://www.applstat.gr.jp/>

日本計算機統計学会

<http://www.jscs.or.jp/>

日本行動計量学会

<http://www.soc.nii.ac.jp/bsj/>

日本計量生物学会

<http://www.soc.nii.ac.jp/jbs/>

国際会議開催情報

ISIのWebサイトに最新の国際会議情報が掲載されています。詳しくは、

<http://isi.cbs.nl/calendar.htm>

を参照ください。

事務局から

●事務局問い合わせ先の変更について

本学会の事務担当が清水信夫から豊田裕貴に変更になりました。これに伴い、連絡先電話番号および電子メール送付先が変更になっています。詳しくは末尾を御覧下さい。

●日本分類学会ホームページ

ホームページのURLは、<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jcs/>です。研究会の予定などの掲載情報を広く募集しております。詳しくは事務局までご連絡ください。

●報告集の頒布

シンポジウム、研究報告会の報告集は若干の在庫がありますので、ご入用の方は事務局までお問い合わせください。

●会報へ寄稿のお願い

今号に寄稿いただいた皆様には、紙面を借りて、お礼申し上げます。お忙しいところ、ありがとうございました。発行が遅れたことをお詫び申し上げます。

JCS会報では、常時、会員の皆様の寄稿をお願いしております。国内外の学会に参加した際の印象記

や研究会の予定など、会員に知らせたいことなど広く募集しております。詳しくは事務局までご連絡ください。電子メールでの寄稿を歓迎します。

●会費納入のお願い

会費収入が見込みを下回る年度が続いております。納入へのご協力をお願いいたします。ご不明の点は、事務局までお問い合わせください。

●IFCS論文集について

IFCS-2004大会の論文集が発刊されておりますので、ご関心のある方は出版社までお問い合わせください。

Classification, Clustering, and Data Mining Applications (2004)

(Proceedings for the IFCS-2004, Chicago, 2004.)

現時点での価格等につきましては、下記宛にお問い合わせください。

〒113-0033 東京都文京区本郷3-3-13

Springer-Verlag Tokyo (シュプリンガー・フェアラーク東京) 編集企画部まで

E-mail: kambara@svt-ebs.co.jp

<学会問い合わせ先>

日本分類学会事務局

〒206-0022 東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1

多摩大学気付

学会事務担当：豊田裕貴

TEL：042-337-7265

FAX：042-337-7103 (日本分類学会宛を明記のこと)

E-mail: jcs-office@tama.ac.jp (事務局)

URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jcs/>